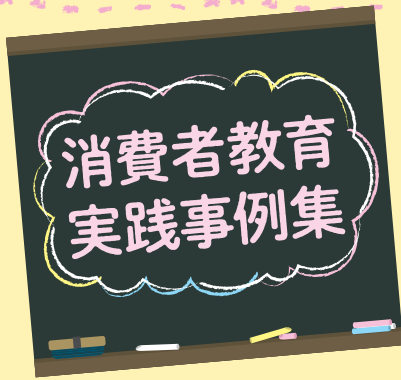


環境問題を学び、 自分にできるエシカル消費を考えよう ーオンラインを活用した授業ー

坂根 裕子 Sakane Hiroko 一般社団法人消費生活総合サポートセンター 消費者志向経営委員会
消費生活アドバイザー 19期。約20年間、主に環境をテーマに、小・中・高・大学向けの教材開発、講座講師などの消費者教育に取り組んでいる。2020年より現団体に所属



消費生活総合サポートセンター(以下、Cサポ)で行う消費者教育は、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れています。

今回紹介するのは、高校生が環境問題を自分事としてとらえ、課題解決に向けたエシカル消費行動への意欲を高めることを目標とした授業です。コロナ禍で外部講師の対面講義や生徒同士のグループワークができないため、企業、NPO、学校をオンラインでつないだ学習と、生徒が自ら考え行動することを表明した「エシカル消費新聞(以下、新聞)」の作成を行いました。

授業の概要

- 授業のねらい：社会的課題に取り組む企業やNPOの具体的な活動の話を通じて課題の解決策の視野を広げ、解決に向けた自らの行動を考える。
- 実施日：2020年10月14日(水)
- 対象：神奈川県立海老名高等学校1年生 10クラス 400名
- 運営体制：Cサポがウェブ会議システムを使ってホストになり、学校と企業2社、NPO1団体をオンラインでつなぐ。学校との連絡調整のためにCサポスタッフを企業、団体、学校に配置。
- 授業の流れ：
1時間目 企業、NPOによる講義
2・3時間目 新聞の作成

1時間目 企業、NPOによる講義

10クラスを次の3つのテーマに分けて、オンライン講義を実施しました(写真)。

写真 オンライン講義を受講しているようす



【食品ロス】製造・流通事業者で出た食品ロスを活用して豚の飼料を作る事業の説明とともに、オンラインでの工場見学を実施しました。

【プラスチックごみ】写真家でもある講師が撮影したプラスチックごみの写真とともに、神奈川県湘南海岸や大岡川での清掃活動の話から、プラスチックごみの現状を伝えました。

【衣料品リサイクル】衣料品のリユース、リサイクル作業の動画視聴とともに、衣料品リサイクルの問題点や循環型社会形成に向けた会社の取り組みを具体的に話しました。

2・3時間目 新聞の作成

Cサポがオンラインで進行役となり、新聞作成を次の3つのポイントに従って進めました。

- ①調べる：1時間目に受講したテーマの問題点や解決策について、Cサポが提供した資料を手掛かりに、スマホなどで調べる。
- ②考える：課題解決のために自分が取り組みたいエシカル消費行動「マイエシカル」を考える。
- ③共有する：グループワークの代わりに、作業中に2回、班内で新聞を回し読みし、コメントシートに「いいね」コメントを記入する。

エシカル消費行動への意欲を高める工夫

課題解決の最前線で活動する企業、NPOによる迫力ある画像や実体験に触れ、自分も何かしたいという意欲が湧いてくるようになりました。

新聞のマイエシカルの欄は「自分ができることから世界でできることへ」もしくは「数年後の自分へ」とし、「今の自分ができることだけにとどまらず、空間的、時間的にも幅広く考えよう」と呼びかけました。さらに、新聞を回し読みしアイデアを共有することで、「自分にできる『マイエシカル』はもっといろいろある」と気づけるようになりました(図1)。

参加した生徒の反応と学習の効果

担当の教員が驚くほど、生徒は3時間とも真剣に取り組みました。生徒からは「実際にゴミを減らす活動をされている方の話を聞いて、行動すればこんなにも変わるんだと分かった。自分もこの世界を変えてやろうという志を持つことができた」「新聞を書くことで、自分の中で整理できて理解が深まった。今ある問題について向き合って自分から行動していきたい」などの意欲的な感想がたくさん寄せられました。

本学習では、SDGsサーベイ*1を授業前と授業後に実施し、専門家に分析を依頼しました。授業後はすべての項目で点数が伸び、特に行動力が25ポイント伸びました(図2)。この結果から、本学習が生徒のエシカル消費行動への意欲を高めることにつながったと考えています。

今後の取り組み

2020年度は、小学校、中学校、大学でも、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた、オンラインによる環境問題に関する授業を行いました。Cサポのウェブサイト*2では今回紹介

図1 生徒が作成した新聞の例

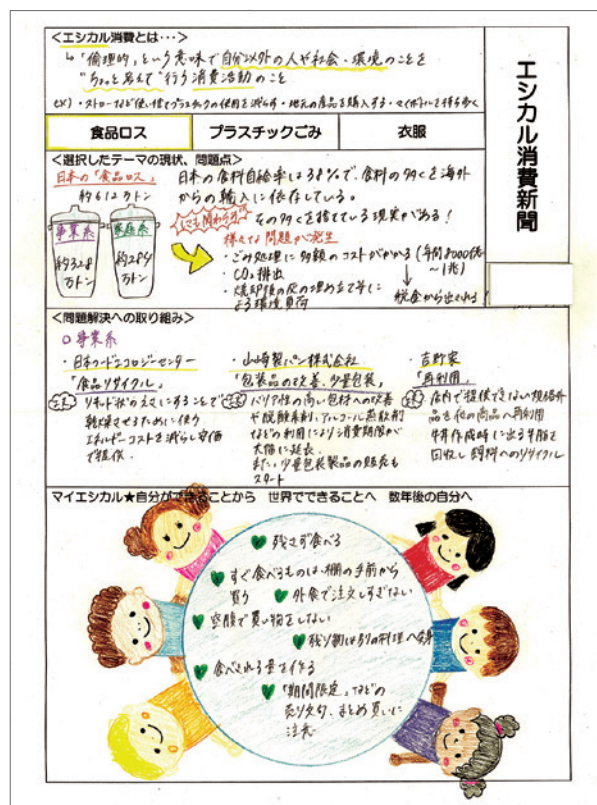
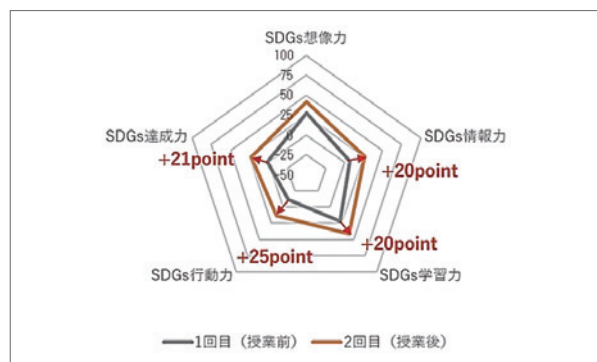


図2 授業前後のSDGs度の結果比較



した授業のようすや生徒が作成した新聞のほか、大学での授業風景の動画を掲載しています。

Cサポでは、消費者教育の授業を受けたい人と消費者教育を学校に届けたいと思っている企業とをつなげるネットワークの拠点になることを目標としています。「遠方の学校の授業でもできる」「遠方の企業の見学ができる」といったオンラインによる良さを生かし、今後もさらに活動を広げていければと考えています。

*1 SDGsサーベイとは、一般社団法人日本エシカル推進協議会が開発した、SDGs度を自己診断できるSDGs評価ツール。SDGsに関する50の質問への回答を点数化して評価する

*2 <https://www.c-support.or.jp/page/home.html>